

 書評

アミー・クライン, フレッド・R・ヴォルクマー, サラ・S・スパロー 編, 山崎晃資 監訳, 小川真弓, 徳永優子, 吉田美樹 訳

総説 アスペルガー症候群

松本英夫

本書はイエール大学医学部チャイルド・スタディ・センターのスタッフが編集して、アスペルガー症候群に関する最新の知見をまとめたものである。「はじめに」はアスペルガー症候群のまさに生みの親であるハンス アスペルガーの孫のマリア アスペルガー フェルダーが執筆しており、祖父の回想とともにその臨床と研究に対する真摯な思想を紹介している。本書は次の 5 部から構成されている。

第Ⅰ部はアスペルガー症候群の行動面に焦点が当てられ、第 1 章：アスペルガー症候群の診断をめぐる問題、2 章：アスペルガー症候群の神経心理学的機能と外的妥当性、3 章：アスペルガー症候群の運動機能、4 章：アスペルガー症候群と高機能自閉症における社会言語使用、から成り、主に診断上の議論が概観されている。第Ⅱ部はアスペルガー症候群に関する遺伝学的・神経心理学的研究を中心に据えており、5 章：アスペルガー症候群は家系内に集積するか？、6 章：自閉性障害とアスペルガー症候群の神経機能モデル、7 章：高機能広汎性発達障害の精神薬理学的治療、から構成され、最近話題になることが多い広義自閉症表現型 (broader autism phenotype) や特に進歩が著しい脳 (機能) 画像による知見などが紹介されている。第Ⅲ部は関連する診断概念に焦点が当てられ、8 章：非言語性学習障害とアスペルガー症候群、9 章：アスペルガー症候群の特異性とは何か？、10 章：児童期のシゾイド・パーソナリティ障害とアスペルガー症候群、から構成され、非言語性学習障害その他の関連障害との概念の異同を扱っている。特にウォルフによる子どものシゾイド・パーソナリティ障害の記述は読み応えのある内容となっている。第Ⅳ部では、アスペルガー症候群を有する青年と成人を対象を絞って論じており、11 章：アスペルガー症候群の子どもおよび青年の評価をめぐる問題、12 章：アスペルガー症候

群の人々に対する治療・介入の指針、13 章：青年期および成人期のアスペルガー症候群の人々、から成っている。13 章はタンタムによるもので、彼の豊富な臨床経験と研究データからこの障害を持つ青年と成人に関する貴重な見解が紹介されている。第Ⅴ部はアスペルガー症候群の研究と臨床的实践に関する思慮に富むいくつかの観点が紹介されており、14 章：アスペルガー症候群の分類をめぐる考え方、15 章：アスペルガー症候群に関する研究の過去と未来、16 章：親による手記、から成っている。15 章はウィング自身による執筆であり、本書を通読したうえでその内容を要約し、アスペルガー症候群の今後の方向性について自説を展開している。

以上のように本書は全部で 16 章から構成され、アスペルガー症候群に関する基礎から臨床に至るまで広範な領域における現時点での到達点をほとんど網羅していると言ってよい。しかもマリア アスペルガー フェルダーやウィングなど随所で歴史的な人物が登場しているために本書がより重厚なものになっている。ぜいたくな難点を述べれば、内容の豊富さゆえに A5 判とはいえ 700 頁に迫ろうという点である。そのため持ち運んで移動中に読むには適さないが、自室の本棚に置き当分の間はアスペルガー症候群に関する up to date の百科事典のような存在になる本である。また精神科臨床の初心者から上級者までさまざまな段階の専門家に必読の書であることは間違いない。このような大作を翻訳された訳者と何より監訳者に敬意を表するとともに、本書の貴重な内容を紹介していただいたことにお礼を述べたい。

(東海大学医学部専門診療学系精神科学)

●A5 671 頁 2008 定価 9,240 円(本体 8,800 円+税) 明石書店